

(1) 平成 2 2 年度事業のまとめについて

1) 川辺堀之内路線実証運行

【これまでの経過】

年度	時 期	内 容	検討・実施	備 考
平成 21 年度	H21.5.16	川辺堀之内路線開設		
	H21.11	沿線アンケート	川辺堀之内、豊田第一自治会	
		利用者アンケート		
		OD 調査		
	H21.12.14	第 7 回交通会議	経過報告（単純集計結果）	
H22.3.24	第 8 回交通会議	集計結果から、沿線住民への知名度が低いと判断。次年度は PR を重点的に実施する。		
平成 22 年度	H22.6.23	第 9 回交通会議	PR 及びアンケート調査の実施、評価、見直し方策の検討を実施することで承認。	
	H22.12	PR チラシ配布	自治会等の協力により実施。	
	H22.12.15	第 10 回交通会議	PR 内容の報告	
	H23.1	PR ポスター掲示	高幡不動尊等の協力により実施	
	H23.2	アンケート調査実施	添付資料参照	

【PR ポスターの掲示】

1) ポスターの内容

川辺堀之内路線の路線図などの運行内容とあわせて、日野市観光協会を通じて高幡不動尊などのご協力をいただき、「節分会」を案内し、更なる利用者の増加を目指すもの。(添付資料参照)

2) 掲示箇所

- ・市内広報板 13箇所(川辺堀之内路線沿線)
- ・高幡不動尊境内周辺

3) 掲示期間

平成 2 3 年 1 月中旬 ~ 2 月上旬

【アンケート調査の実施】

種 別	内 容	備 考
実施期間	平成 23 年 1 月下旬～3 月中旬	
調査対象	沿線自治会会員	上田、いずみ自治会
調査方法	回覧板による各戸配布・回収	1 世帯最大 2 通回答
調査内容	日頃の外出状況、認知度 運行開始による生活の変化 など	
調査結果	アンケート調査結果報告書参照	

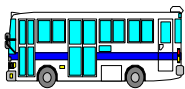
【利用人員の変化】

年 度	利用者数	1 日平均	備 考
平成 21 年度	35,332 人	122.7 人	
平成 22 年度	48,237 人	144.4 人	
差 引	12,905 人	21.7 人	増減率 17.7% (日平均)

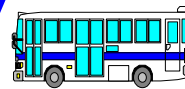
各年度とも、3 月分の数値は除いている

- ・前年度と比較し、全ての月において利用者は増加している。
要因としては、周辺住民への積極的な P R などに伴う認知度の向上などが考えられる。(P.4 グラフ参照)

🌀 日野市役所からのお知らせ



ミニバスで、出かけよう!



高幡不動尊 節分会

2月3日(木) 10:00 ~ 11:00 ~ 13:00 ~
15:00 ~ 16:00 ~

~ 高幡不動尊において、節分豆まき式が盛大に催されます ~



- ・ 豆をまくのは約1000人!
- ・ 芸能人やタレントも参加し、10時から5回にわたり実施
- ・ 境内では「だるま市」も開催

【主な参加者(敬称略)】

梅宮辰夫 つのだ ひろ 白石美帆
賀集利樹 ハローキティ など



高幡不動尊へは**ミニバス「川辺堀之内路線」**が便利です!
地域の足を支えるバスです。みんなで利用しましょう!



ミニバス お問い合わせ先

日野市
まちづくり部都市計画課交通政策係
TEL:042-585-1111(内線3131)

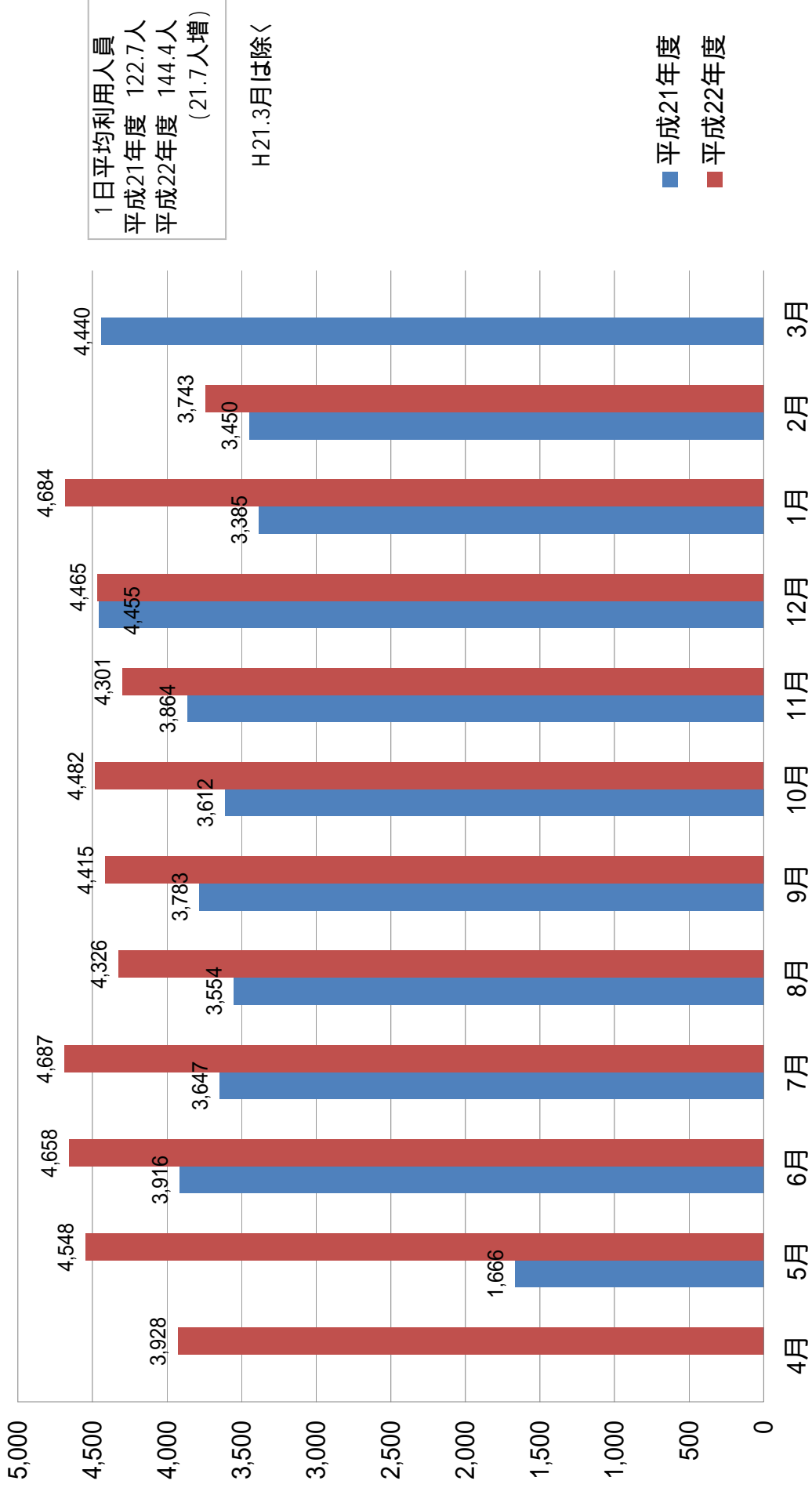
京王電鉄バス株式会社
桜ヶ丘営業所
TEL:042-591-2712

節分会 お問い合わせ先

高幡不動尊
TEL:042-591-0032

2月4日まで掲示
都市計画課

ミニバス川辺堀之内路線利用人員

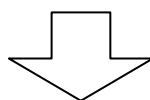


調査結果

1 回答者属性

項目	本年度実施 沿線居住者 対象調査	【参考】	
		昨年度実施 沿線居住者 対象調査	H17 国勢調査 (日野市人口)他
60 歳以上の割合	53.6%	40.1%	27.4%
女性の割合	57.3%	57.1%	48.6%
一人暮らしの割合	4.9%	3.1%	19.3%
運転免許保有率	66.0%	75.9%	55.9%

運転免許保有率は「警視庁の統計（平成 20 年）」より「運転免許保有者（全種）
÷東京都総人口」にて算出した。



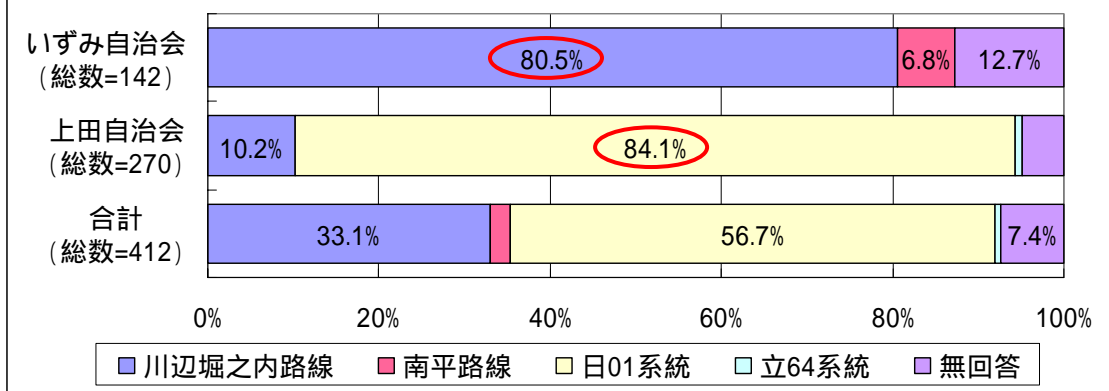
回答者属性について

- ・自治会による配布・回収であったことから、高齢者がやや多く、一人暮らしの割合が少ない。一方で、運転免許保有率は都の平均よりも高い。

昨年の調査と同様、バスへの関心が高い人だけでなく、日頃自動車を利用して
いる人など、沿線に住む幅広い層から回答が得られていると考えられる。

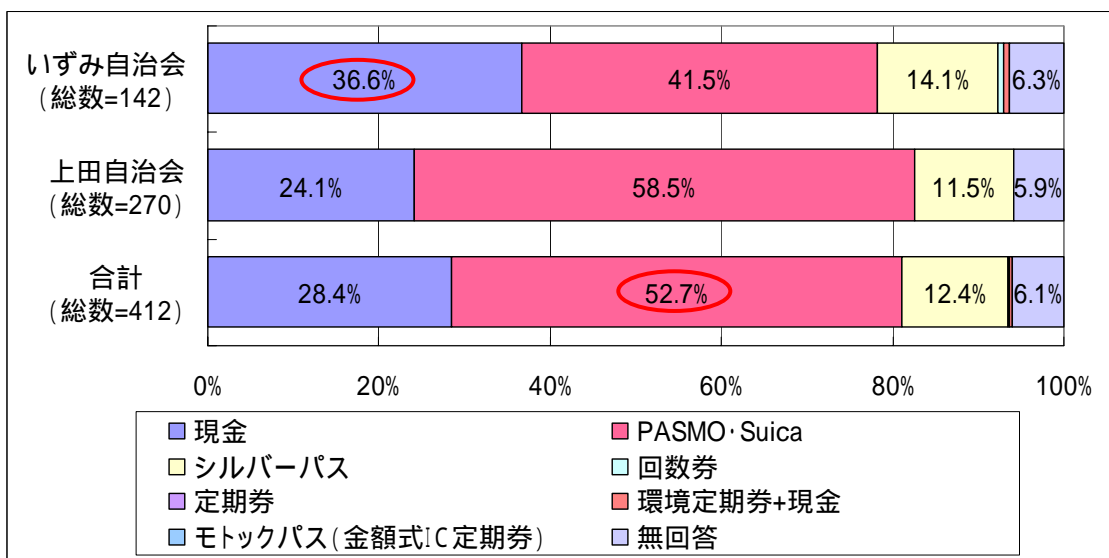
2 主に利用するバス路線

いずみ自治会では、主にミニバス川辺堀之内路線を利用する人が81%を占めている。一方、上田自治会では主に一般路線バスの日01系統（高幡不動駅～日野駅）を利用する人が84%を占めている。



3 バス利用時の運賃支払い方法

PASMO・Suicaでの利用者が約半数を占め、現金利用者を上回っている。昨年度調査における構成比は「現金36%、バス共通カード11%、PASMO・Suica35%」であり、いずみ自治会における現金利用者の割合（37%）は昨年度調査結果と同程度である。



4 運賃割引方法の認知度

「バステ」については、ICカード利用の多い上田自治会では認知度も比較的高い。「環境定期券」については配布チラシにてPRしたものの、認知度は低い。

自治会	PASMO・Suicaでの割引「バステ」	環境定期券
いずみ自治会	21.8%	3.5%
上田自治会	42.2%	5.2%
合計	35.2%	4.6%

【参考】

PASMO・Suicaでの割引「バステ（バス利用特典サービス）」

PASMO・Suicaでバスを利用すると、1ヶ月間（毎月1日～末日）のバス利用額に応じ、カード内にポイントがたまる。1,000ポイントたまるごとに、カード内に特典バスチケット（100円～450円分）がつき、特典バスチケットは次にバスを利用する際に自動的に運賃として使用される。

環境定期券

京王電鉄バスグループが発行する定期券の所有者、及び同伴の同居の家族は、土・日・祝日は路線バス全線（高速バスや一部の系統を除く）が1回の乗車あたり、大人100円、小児50円にて利用できる。

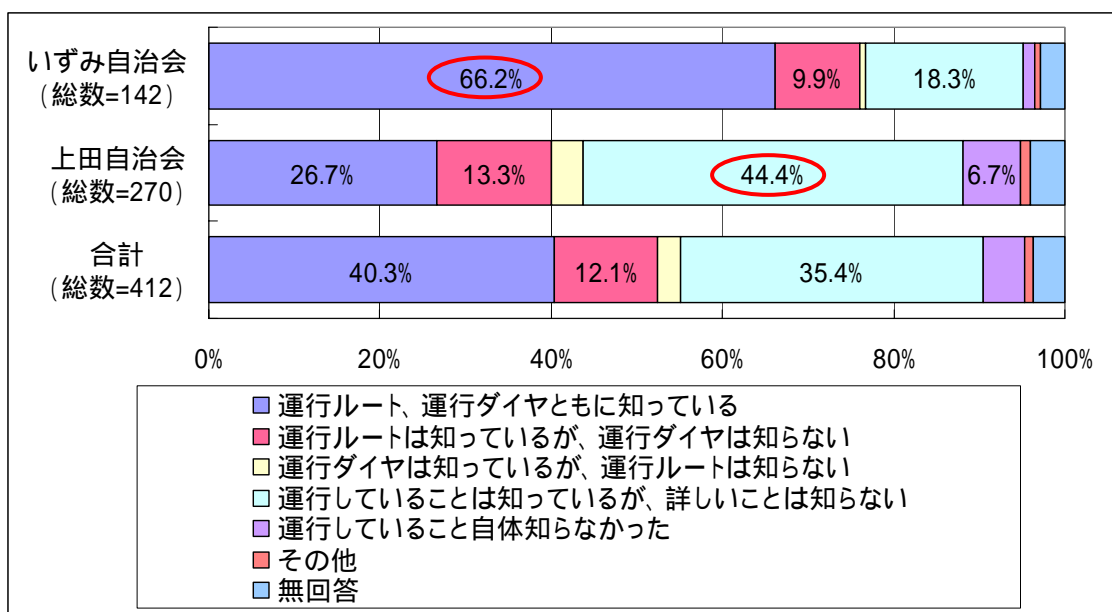
5 豊田駅・高幡不動駅方面への外出について

いずみ自治会からは豊田駅方面への買い物目的での外出が多く、主な交通手段は自転車・バス（川辺堀之内路線）である。一方、上田自治会からは高幡不動駅方面への買い物目的での外出が多く、主な交通手段は路線バス（ミニバス以外）・自転車である。上田自治会から豊田駅方面への外出は特に少ない。

自治会	項目	豊田駅方面への外出	高幡不動駅方面への外出
いずみ自治会	外出頻度	月平均 10.4 日	月平均 3.9 日
	主な目的	買い物：69.7% 通院：27.5%	買い物：58.5% その他：19.7%
	主な交通手段	自転車：40.8% 川辺堀之内路線：37.3%	川辺堀之内路線：39.4% 自転車：30.3%
上田自治会	外出頻度	月平均 2.6 日	月平均 10.2 日
	主な目的	買い物：41.5% その他：16.3%	買い物：67.4% 通勤：17.0%
	主な交通手段	自分で運転する車：47.4% 自転車：23.3%	路線バス：38.9% 自転車：38.9%
【参考】 昨年度調査結果 (豊田第一自治会、 川辺堀之内自治会)	外出頻度	月平均 10.3 日	月平均 6.4 日
	主な目的	買い物：54.7% 通勤：21.3%	買い物：59.0% その他：23.1%
	主な交通手段	自転車：42.6% 自分で運転する車：35.8%	自転車：37.4% 自分で運転する車：36.8%

6 川辺堀之内路線の認知状況

いずみ自治会では運行ルート・ダイヤを知っている人の割合が66%であり、昨年度調査結果(47%)よりも高い。一方、上田自治会では「詳しいことは知らない」と回答した人が44%(昨年度調査では26%)を占めており、依然として周知が課題となっている。



7 川辺堀之内路線の利用状況

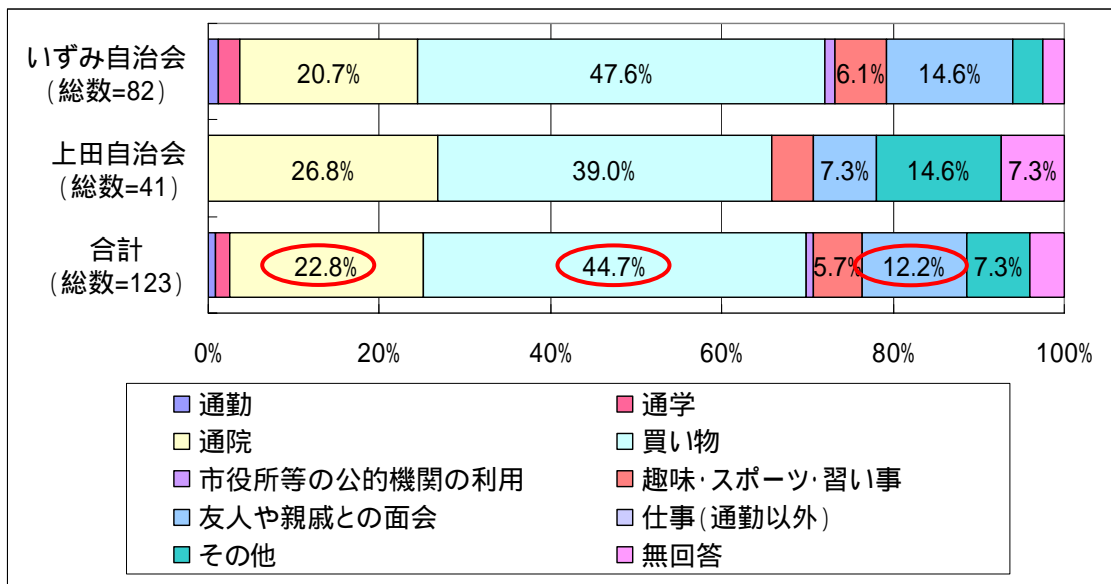
利用頻度

いずみ自治会では約半数(49%)の人が「月に1日程度は利用している」と回答しており、利用頻度は月平均5.3日である。一方、上田自治会で「月に1日程度は利用している」と回答したのは12%であり、利用頻度は月平均4.5日である。

自治会	利用している人の割合	利用している人の利用頻度
いずみ自治会	49.3%	月平均5.3日
上田自治会	12.2%	月平均4.5日
合計	25.0%	月平均5.0日

利用目的

利用目的については、買い物（45%）、通院（23%）、友人や親戚との面会（12%）が多く、この3つで80%を占める。



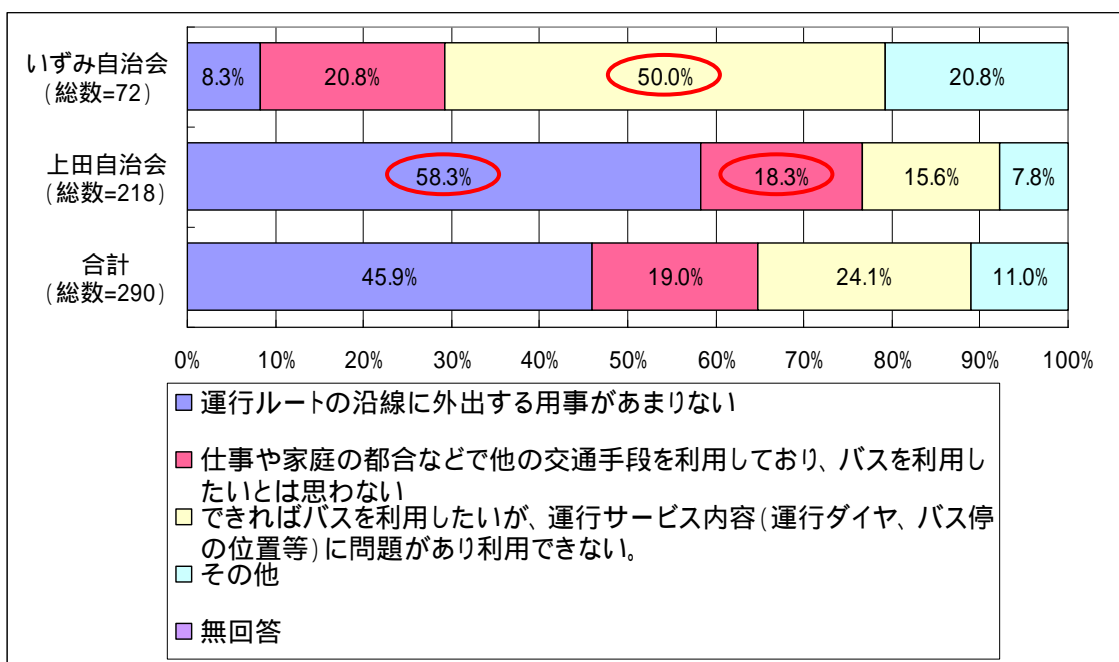
往復利用の状況

両自治会ともに往復利用者が少ないが、行き（または帰り）の交通手段は自治会により異なり、いずみ自治会ではタクシーが、上田自治会では路線バスが多い。

自治会	往復利用者の割合	往復で利用しない理由	行き（または帰り）の交通手段
いずみ自治会	35.4%	終バスが早い （時間帯が合わない） 運行本数が少ない （時間が合わない）	タクシー：37.3% 徒歩：27.5%
上田自治会	36.6%		路線バス：30.4% 鉄道：17.4%

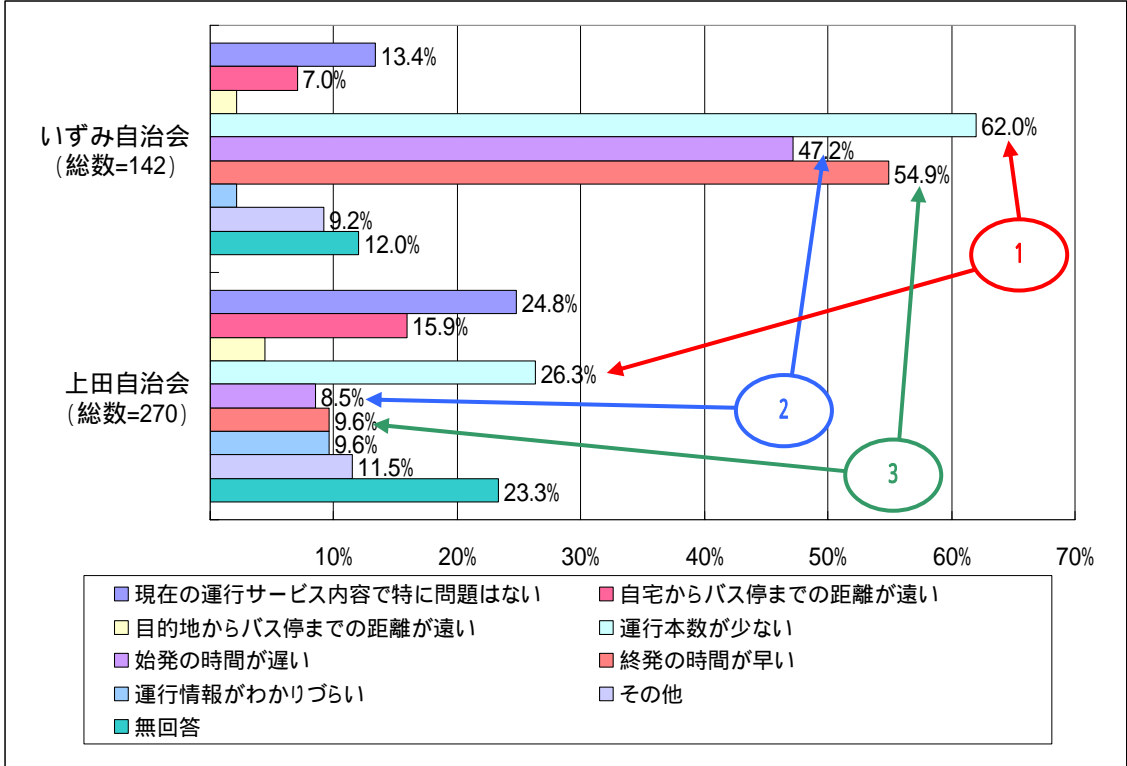
8 川辺堀之内路線を利用しない理由

いずみ自治会では、「できればバスを利用したい」と考えている人が50%であり、運行サービス改善による利用者増の可能性が窺える。一方、上田自治会では「用事がない」ため利用しない人が58%であり、「他の手段がある」ため利用しない人（18%）と合わせ77%を占めている。

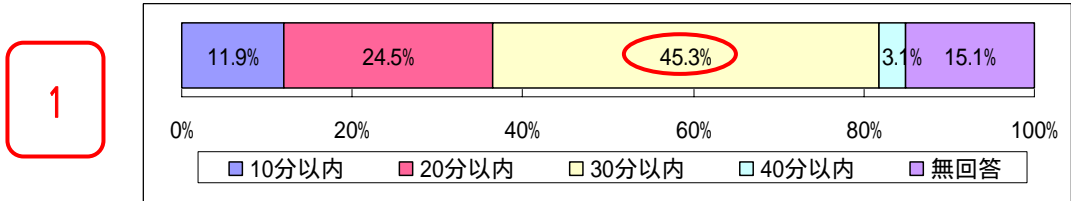


9 川辺堀之内路線の運行サービスについて

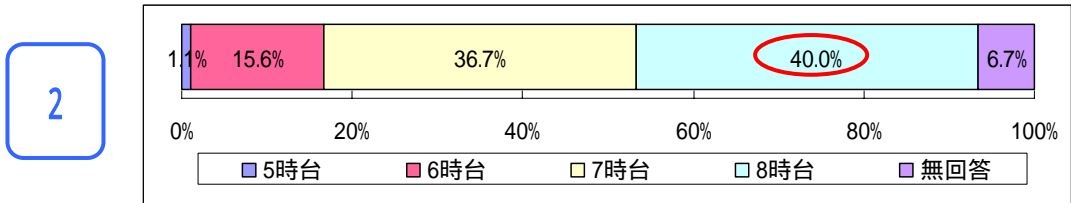
いずみ自治会では、運行本数及び始発・終発時間に問題を感じている人が多い。



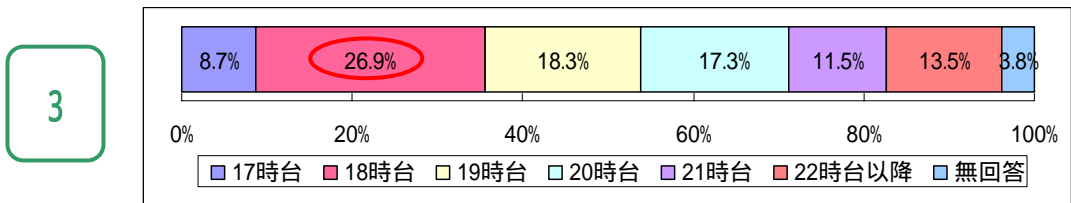
何分間隔なら利用したいか (回答者数 : 159 人)



何時台から運行されれば利用したいか (回答者数 : 90 人)

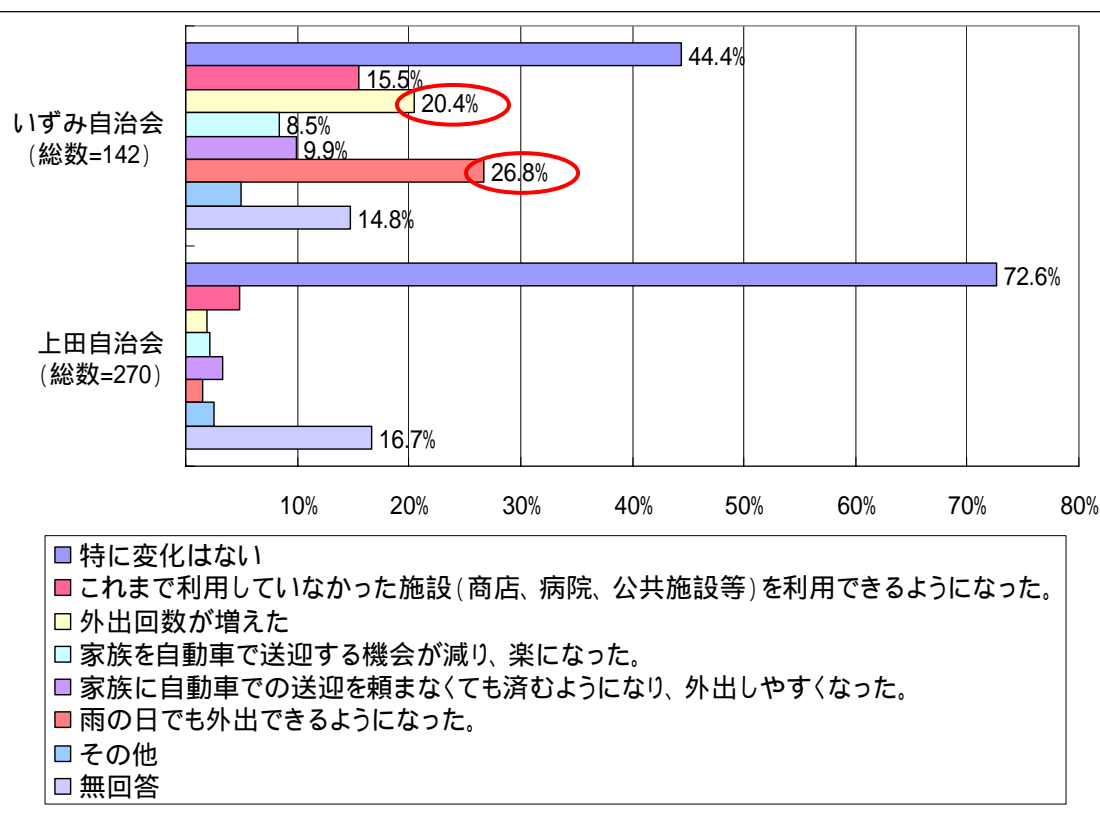


何時台まで運行されれば利用したいか (回答者数 : 104 人)



10 川辺堀之内路線の運行開始による生活の変化

両自治会とも「特に変化がない」が最多であり、特に上田自治会では73%を占めている。川辺堀之内路線の認知度が低く利用者の少ない上田自治会では、生活に大きな変化はみられない。一方、川辺堀之内路線の利用者が比較的多いいずみ自治会では「雨の日でも外出できるようになった」が27%、「外出回数が増えた」が20%であり、川辺堀之内路線の運行が、移動制約者の外出機会増加に寄与している状況が窺える。



まとめ

調査結果より、以下の点を読み取ることができる。

【いずみ自治会】

7割弱が「運行ルート・ダイヤともに知っている」と回答しており、半数の人が「月に1日程度は利用している」と回答している。

当該地域からは豊田駅方面への外出が多く、自転車・バスの利用が多い。

結果として3割弱が運行による生活の変化として「雨の日でも外出できるようになった」と回答している。

また、利用していない人のうち「できれば利用したいが運行サービスに問題があり利用できない」と回答した人が半数を占める。

運行サービスの問題点として「運行本数の少なさ」「始発の遅さ」「終発の早さ」が挙げられており、これらの要因により川辺堀之内路線の往復利用者は利用者の4割弱と少ない。

川辺堀之内路線の往復利用者は利用者の4割弱と少なく、往復で利用していない人の逆方向の移動手段は、タクシーが4割弱、徒歩が3割弱である。

【上田自治会】

「運行ルート・ダイヤともに知っている」と回答した人は3割に満たず、「月に1日程度は利用している」と回答した人は1割程度にすぎない。

当該地域からは高幡不動駅方面への外出が多く、路線バス（日野01系統）・自転車の利用が多い。その反面、豊田駅方面への外出は少ない。

結果として7割強が「運行による生活の変化は特にない」と回答している。

いずみ自治会とは異なり、「できれば利用したいが運行サービスに問題があり利用できない」と回答した人は2割に満たない。

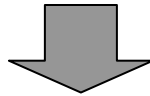
運行サービスの問題点として「運行本数の少なさ」が挙げられているが、いずみ自治会に比べると回答者の割合は低く、「特に問題ない」と回答している人も多い。

川辺堀之内路線の往復利用者は利用者の4割弱と少なく、往復で利用していない人の逆方向の移動手段は、路線バスが3割である。

【来年度事業について】

以上の調査結果及び利用者数が増加傾向にある状況を踏まえ、来年度事業の実施方向性を以下のように設定する。

- 本年度事業ではPRを実施し、PR後の利用者数増加、いずみ自治会における路線認知度の向上など、一定の効果がみられた。
- 上田自治会からの利用者は少ない状況にあるが、いずみ自治会に比べ認知度が低く、認知度を高めることにより、豊田駅方面への新規外出需要の創出も可能性として残されている。
- 一方、昨年度も課題であった「運行本数の増加」「運行時間帯の拡大」は本年度も利用者に課題として認識されており、運行サービスの低さが往復利用の妨げになっていることも明らかになった。
- しかし本年度同様、来年度も限られた車両・運転士によりミニバス全体のサービス向上を目指すことが必要であり、川辺堀之内路線の運行サービスのみを格段に向上させることは困難である。



- 沿線住民へのPRを継続的に実施し、路線認知度の向上、新規需要の創出を目指す。（利用者が増加すれば、運行サービス向上への展望が開ける。）
- 特に今春の豊田駅バリアフリー化を踏まえ、北口路線への乗り継ぎ案内を含めたPRを実施する。